

氏 名	畑 智 子
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)
学 位 記 番 号	博 乙 第 95 号
学位授与の日付	平成 13 年 3 月 26 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	万国博覧会における「日本」建築 1876-1904 —アメリカ合衆国における三博覧会の分析を通じて—
審 査 委 員	(主査) 教 授 日 向 進 教 授 河 邊 聡 教 授 古 山 正 雄 国立国際美術館館長 宮 島 久 雄

論 文 内 容 の 要 旨

19世紀半ばから世界各都市で始まる万国博覧会に日本も積極的に参加する。本論文は、アメリカ合衆国で開催された3つの博覧会（1876年のフィラデルフィアにおける「独立記念博覧会」、1893年のシカゴにおける「コロンブスアメリカ大陸発見記念博覧会」、1904年のセントルイスにおける「ルイジアナ州購買記念博覧会」）において、日本がどのような建築を建てたのか、またそれはどのような経緯によるのかということ、一次資料に基づいて明らかにすることを第一の目的とする。さらに、建築意匠の分析を通じて博覧会で何を提示しようとしたのか、また何を「日本的なもの」と認識したのかという点について考察し、さらに博覧会の開催地で展示された「日本」がどのように受容されたかを現地で発行された媒体資料により検討している。

序章で研究の概要と意義を述べ、以下全5章で構成されている。

第1章：「1876年フィラデルフィア万国博覧会」

1876年（明治9）フィラデルフィア万国博覧会への日本の参加の経緯、出品状況および二棟の建築について論じている。2つの建築は売店と住宅で、棟梁松尾伊衛以下13人の職人が渡航し、材料もすべて日本から運ばれた。それらには千鳥破風の式台と人母屋の屋根、軒唐破風が採用された。明治9年といえば国内では盛んに洋風建築の導入・推進がはかられ、擬洋風建築も多数建設された時期であるが、海外の万博ではあえて江戸時代後期の価値観を引き継いで、伝統的な広報と様式で「日本的なもの」を表現したのであろうと考察している。

第2章：「1893年シカゴ万国博覧会」

1893年（明治26）シカゴ万国博覧会で日本政府が建設した「鳳凰殿」の建設経緯と形態を述べ、これに深く関与した岡倉天心の意図について考察している。「鳳凰殿」はモデルにした平等院鳳凰堂の形態を取りながら、中堂は江戸時代、右翼部は室町時代、左翼部は平安時代が再現された。「正當な日本の伝統美を見せる」という目的を掲げながら、日本の歴史の長さそれぞれの成熟した建築があったことを提示したいという岡倉の意図が強く働いていたと推測している。

第3章：「1904年セントルイス万国博覧会」

「日本の大工職人が建てた」「材料は日本から運ばれたもの」と、世界の舞台で「日本」を表現するにはあくまで「オーセンティック」なものであることを強調しながら、細部まで性格に建築モデルを再現するというよりも、豪華さや濃厚さを強調するモチーフを時代を超えて混合させる手法を選ぶことによって、米国にアピールする要素が付け加えられていると論じている。

第4章：「日本展示に対する評価」

本章では、第1～3章で見てきた建築がアメリカではどのように評価されたのか、またその見方は1876年から1893年を経て1904年（明治37）までにどのような変化があったのかという点を、現地で発行された新聞、雑誌を素材として分析している。

第5章：「終章」

それぞれの博覧会の建築の規模や意匠についての比較分析と歴史展示の意義について述べている。

論文審査の結果の要旨

博覧会における建築は仮設的で特殊なものとなみなされているせいか、建築史のなかでまだ十分に位置づけられていない。申請者は、19世紀から20世紀初頭にかけてアメリカ合衆国で開催された3つの万国博覧会における日本建築に焦点を当て、海外における博覧会建築を「外国人の目を意識した近代和風建築」として近代建築史の中での位置づけを試みた。そして、博覧会での日本建築は、あくまで伝統的構法と材料にこだわっているという点において、また伝統的建築を構成する要素をばらばらに分解し好みの要素が選択されるという点において、伝統の維持、要素の集積という近代和風建築のカテゴリーに組み込まれるとともに、様式的な建築意匠が部分的に付加されるという点に博覧会の存在意義があると指摘している。

近代の日本は明治開国以降大量の西洋文明の流入を余儀なくされ、同時に日本の文化的アイデンティティという問題にも直面することになる。近代における日本のアイデンティティの形成と歴史認識については、近代研究の領域で問われている課題でもあるが、本研究はその課題に対する1つの糸口として評価される。

本論文は『日本建築学会計画系論文集』に審査を経て掲載された2編の論文、その他をもとに構成されている。

- ・畑 智子：「1876年フィラデルフィア万国博覧会の建築にみる「日本」」、『日本建築学会計画系論文集』第503号、1998年1月
- ・畑 智子：「セントルイス万国博覧会における「日本」の建築物」、『日本建築学会計画系論文集』第532号、2000年6月
- ・畑 智子：「明治10年代の輸出工芸品にみる日本イメージの創出」、意匠学会『デザイン理論』、第35号、1996年11月
- ・畑 智子：「1876年フィラデルフィア万国博覧会の概要と「日本」の出品物について」、賀茂文化研究所『賀茂文化研究』第6号、1998年2月
- ・畑 智子：「19世紀世界の中の日本—セントルイス万国博覧会にみる文化交流とナショナリズム」、神戸市外国語大学外国学研究所『外国学研究』第44号、1999年3月